

令和7年度

事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【施設概要】

No	名称	種別	所在地
1	法人本部・アテイン	法人本部 就労継続支援 A 型	泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202・201
2	よこはまりバーサイド泉 ※よこはまりバーサイド泉わかば	障害者支援施設 ※放課後等デイ	泉区下飯田町 355
3	よこはまりバーサイド泉相談支援	相談支援	泉区下飯田町 355
4	よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨	生活介護	泉区下飯田町 1374-2
5	よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり	生活介護	泉区下飯田町 811-6
6	居宅サポート・リバーサイド泉	居宅介護	泉区和泉中央北 6-3-13
7	グループホームゆい	共同生活援助	泉区泉中央北 6-26-8
8	グループホームサンライズ	共同生活援助	泉区和泉町 1197-1
9	横浜市中央浩生館	更生施設	南区中村町 3-211
10	インカル	就労継続支援 B 型	中区翁町 1-3-9 タムラビル 2 階
11	グループホームすてら縁	共同生活援助	南区真金町 1-6-55 阪東橋ステラ
12	うるおい南	就労継続支援 B 型	南区睦町 1-25
13	横浜市大岡地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	南区大岡 1-14-1
14	横浜市蓑沢地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	中区蓑沢 13-204
15	横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	保土ヶ谷区川辺町 5-11
16	横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4 階
17	グループホームアンダール	共同生活援助	保土ヶ谷区常盤台 64-18
18	CaféTurtle	就労継続支援 B 型	神奈川区神之木町 88-1
19	横浜市多機能型拠点こまち ※なごみクリニック	横浜市多機能型拠点 ※診療所	瀬谷区二ツ橋町 489-45
20	左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ	放課後等デイサービス	横浜市旭区左近山 1011

(名称の網掛けは、指定管理施設)

《経営理念》

夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く

《基本理念》

- 1 人々に共感と信頼の得られる社会福祉事業を行うことにより、人々の安心した暮らしの実現を支援します。
- 2 地域の関係機関と連携しながら、地域における福祉の環境づくりに貢献します。
- 3 堅実かつ効率的な経営に務め、サービスの質の向上と安定的な提供を確保します。

法人本部・アテイン

I. 事業報告

重点目標に対しての達成状況
I. 法人本部 (ア) 職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築 ① 人事考課制度改革に向けて、福祉職場に適した考課制度に関する情報収集を行い、次年度の人事考課制度改革に向けた準備を行った。 ② 物価上昇や少子高齢化等の要因を踏まえて、7月1日付で給与制度改革を行った。法人全体で常勤職員は4.9%、20代から30代前半の若年層には、約7.3%の賃上げとなった。 (イ) 事務業務の効率化 ① 令和7年度は、リバーサイド泉総務事務を本部事務局に移管し、業務の見直しを行った。 ② 給与事務の正確性の向上、将来的に予測される人材難を見込み、給与事務のアウトソーシングについて検討を行った。 (ウ) コンプライアンス経営の強化 内部通報制度を適切に機能させることを目的として、外部通報窓口を各職場に定期的に周知した。 (エ) 職員採用・定着支援の強化 ① 新卒の新採用職員に対しては、定期的な面接、研修機会の設定により、きめ細やかな定着支援を行い、離職防止に努めた。 ② 社会福祉士等を養成する大学・専門学校からの実習生受け入れを積極的に行い、大学・専門学校との連携を強化した結果、実習生のうち1名の採用に至った。 ③ 外国人介護人材の採用に取り組み、2名を採用した。 (オ) 健康経営の推進 ① 昨年度に引き続き、よこはまウォーキングポイントに事業所単位で参加し、歩くことによる健康づくりを勧奨した。 ② スポーツによる健康づくりを勧奨した結果、駅伝部がFMヨコハママラソンに出場した。 ③ 昨年度に引き続き、外部カウンセリングサービスと契約し、心の健康づくりについて、職員のサポートを行った。 (カ) 災害への備えの強化 ① BCPに基づき、9月5日に法人全体の防災訓練を実施した。 ② 神奈川県と協定に基づく神奈川 DWAT(災害派遣福祉チーム)の福祉避難所運

営訓練、1都4県研修会に、それぞれ職員2名を派遣し、災害支援に関するノウハウの蓄積を図った。

2. IT推進室

(ア)情報発信の強化

法人ホームページをリニューアルした。各施設のブログの更新情報をトップページのお知らせ欄にあげるとともに、更新頻度も上げるなど、法人からの情報発信を強化した。

(イ)パソコンの入れ替え

Windows10のサポート終了に伴い、法人全体で192台のWindows11への入れ替えを行った。

3. アテイン

(ア)業務範囲の拡大と販路拡大に向けての取り組み

業務範囲の拡大の結果、前年度比約135万円の受注増に繋がった。それに伴い、ご利用者の賃金は時給63円の昇給を行い、全体では前年度比年額約54万円の給与向上となった。

(イ)就労継続支援に関するノウハウの可視化

マニュアルの作成、ご利用者との日々の関りの言語化に取り組み、法人内の事業所でも汎用できるように準備を進めた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6年度		R7年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アテイン(定員10人)	9.5人	9.8人	10.0人	10.0人

よこはまりバーサイド泉

Ⅰ. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

Ⅰ. ご利用者が安心して生活できる環境づくり

(ア)ご利用者の尊厳を大切にした支援の実践

- ① 県意思決定支援アドバイザー協力の下、新人職員へ R6 年度意思決定支援実践報告会を実施。取組みにより、意思決定支援ガイドライン研修講師サポートや意思決定支援の実践報告会での事例報告の要請を受けた。
- ② 虐待防止委員会の全体研修として事例検討を実施、いろいろな職種を交えた意見交換により、権利擁護の視点を共有することができた。
- ③ 6 年ぶりに棟別話し合いを再開し、ご利用者からの意見や話し合いを月 1 回実施。また、当事者自ら第三者委員会へ相談できる仕組みを定着させた。

(イ)感染対策の徹底

- ① ゾーニングの現状の運用について、感染発生時を想定した配置の再整理し、必要物品の保管場所について整理した。緊急時に迅速に使用できる環境整備と、居室環境の再確認を行い各居室に応じたガウンの着脱場所の整理を行った。
- ② 手洗い研修を実施し、正しい手指衛生の方法について再確認を行った。実技を通して基本的な感染対策の重要性について再認識する機会となった。また、基本的な手洗い方法を掲示し手洗いを意識できる環境設定を実施した。
- ③ クラスター発生時に居室内で必要となる物品（消毒用スプレー、手袋、ゴミ袋）について確認し、設置スペースの制約により常設が困難な状況があった。そのため、実現可能な対応として消毒用スプレーの設置場所を明確化し、最低限の感染対策が実施できる環境を確認した。
- ④ 感染症の初動対応に関する研修を実施し、新任職員を中心に感染対応時の居室環境（感染部屋）の設定方法について確認を行った。その結果、現行マニュアルでは対応しきれていない内容が明確となり、改訂の必要性が確認された。

(ウ)福祉機器の活用による安全な介護

- ① 状況変化及び半期毎に、介護マニュアルを見直し、福祉器具の導入を検討した。
- ② オムツ業者と使用頻度や漏れ対策について定期的に面談を実施し、オムツやパットの見直し、スキントラブルの予防に努めた。
- ③ ノーリフト委員会によるリフター技術チェック(年 18 回)を毎月実施し、安全な使

用方法の習得に向けて取り組んだ。

- ④ 新採用職員研修として事業所に配属後、3 日間の研修を経て現場研修が開始。指導職による 1 年間のフォローアップを受けて福祉機器の操作と介護技術を習得した。

(エ) 家族や成年後見人との連携強化

- ① 介護マニュアルを家族(後見人)と共有し、施設生活状況の報告に努めた。また、地域移行確認頻度を増やした。
- ② 動画研修の受講、生活日誌やケース記録の表現方法、氏名の表記等、注意点を職員間で共有し見直した。
- ③ 排泄や食事の記録を紙から支援記録システムに入力変更。タブレット導入による記録入力の効率化を図った。更なる活用を今後も引き続き検討する。

(オ) 緊急時対応の強化

- ① 水害を想定した避難訓練を実施。実施後、マニュアルの変更を行った。
- ② 本郷町内会の地域防災訓練に参加させていただいた。また、連合町内会の災害協定について再確認し消防団にご挨拶した。
- ③ エリアマップを広げ、給水所や避難場所、災害時の流れについてミーティングを実施。災害マニュアル参集時間や担当者を更新した。
- ④ 防災備品のヘルメットやライトの用意、貯水タンクの台車を木エボランティアさんに作成いただいた。
- ⑤ 災害食保管場所と使用法の研修を実施した。災害用のトイレ問題について BCP 委員会を立上げ継続検討する。
- ⑥ 救命訓練を泉区消防署と連携し、新人職員対象に実施した。また、夜間・緊急時の対応マニュアルの見直しを行った。

2. 風通しの良い職場風土を目指した職場環境の整理

(ア) 相談しやすい環境づくり

- ① 管理職の朝礼内容をグループチャットで周知するとともに、各所現場引継ぎの時間帯に参加、巡回時に管理職へ声をかけやすい環境づくりを実施した。
- ② 現場では新人職員のフォローアップ面談内容を更新。常時、リーダー級職員を配置した。また、目標面談の定期実施や、フリー時間の確保と均一化を行った。昨年度に引き続き、職員の定着に繋がった。
- ③ 意見箱を常設した。意見内容を第三者委員へ報告し、意見を伺う流れができた。今後、職員全体に意見や取組状況の開示について見直しを行う。

(イ) 業務マニュアルの更新

- ① 短期入所の受け入れ手順・事務処理の事前入力方法・ご利用者の居室準備方法を写真付き整え、誰もが対応可能にできるよう業務のマニュアルを整えた。

- ② 半年毎に介護マニュアルを更新し、現状に合った情報が把握できるように整えた。また、ご利用者の入退所が重なったことを受け、全体のタイムスケジュールを更新した。
- ③ 個別業務時間確保のため、全職員にフリー時間を配置した。
- ④ 個別面談での評価、不規則勤務の見極め合格等、全体で共有し承認した。

(ウ)職員間の協力体制強化

- ① 緊急時業務体制強化のため、男女間の業務共有を図るべくリーダー層同士のミーティングを隔月に実施。業務内容の確認やマニュアルの整備について検討できたが検討内容から隔月ではタイムリーに対応できなかった。
- ② 一部職員対応となっていた「日誌(職員配置)」「夜間(リーダー業務)」「通院(準備や通院先での対応)」マニュアルの作成や更新を行い均一化した。
- ③ 2年目以降の職員を食事配置から異性介護配置実施。別棟交換研修の合間や土日に職員配置を実施したが、勤務配置上可能な職員のみとなった。

(エ)DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

- ① プラウドノートによる会議録の簡素化やタブレット導入による音声入力のごく一部の職員のための使用となっている。タブレットは食事や排せつといった簡単な作業から使用に慣れていく。また、AIについては使用方法の説明について課題がある。
- ② KAERUカード導入に向けた家族説明会を実施したものの、クレジットカードの管理費用の利用者負担が増えること、現金とクレジットカード二種の預かりによる煩雑な事務作業が難しいことからデジタル化については見送りとした。

3. 個別のニーズに基づくサービス提供による利用者満足度の向上と新規利用者獲得

(ア)サービスの充実

- ① キャッチコピーに基づき、ご利用者が希望する外出を実現することが出来た。ご利用者からも「また行きたい。良かった。」との感想をいただいた。また、それらをピアールすることで、新規利用者獲得につながった。
- ② キャッチコピーを作ってから、利用者家族からの紹介も増えてきた。利用日数を増やすなど「わかばに行きたい。わかばがいい」と言っていたき職員の励みとなった。
- ③ 月1回ミーティングを開催し、多職種の視点でご利用者状況を共有しカンファレンスした。
- ④ 虐待防止委員会の主催研修を実施。多職種他部署を絡めたグループワークによる気づきや、ファシリテーター技術向上を図る取り組みが出来た。
- ⑤ 転倒が続く方への対応について検討会実施。ケース記録から動機が排泄に起因する事が分かった。

(イ)新規利用者の獲得

- ① 施設入所審査に伴い、短期利用を提案し、新規利用につながるように努め

た。

- ② 短期入所受入れについて泉区相談支援部会にて告知を提案し、基幹相談や相談事業所への紹介の機会について相談した。
- ③ 短期入所の空き情報が分かるようなツールについて検討した。

4. 地域や関係機関との連携強化

(ア) 地域とのつながりの促進

- ① 福祉施設合同研修会に参加(天王森の郷)した。
- ② 第1回地域連携推進会議を2月24日に実施。入居者、家族、地域住民の参加者により開催した。
- ③ コロナ後初となるリバーサイド祭の合同開催が実現。毎月の合同ミーティングにより情報共有が十分にできた。次年度も合同開催が決まり、今年度課題(地域住民への周知時期やボランティア要請の時期)を改善して開催していく。
- ④ 富士塚祭実行委員として地域住民と協力しながら祭の準備を予定するも台風で中止。近隣住民に施設の所在を理解頂けるよう、泉が丘中学校に演奏会や花植えイベントへの協力を相談し、リバーサイド祭にて協力頂いた。

(イ) 保護者や関係機関との連携強化

- ① 放課後等デイサービス保護者会を6月21日(土)に開催。活動の様子紹介や、令和7年度の支援体制などの説明、保護者同士が交流する機会にもなった。
- ② 泉区自立支援協議会児童連絡会には、今年度は参加できるテーマがなかったため、参加できなかった。
- ③ 学校との交流会、連絡会には、学校主催の事業所連絡会に参加し、学校及び他事業所と交流することができた。また学習発表会に出席し、児童の日頃の様子や家族、先生方とも情報交換することができた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6年度		R7年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60人)	58人	55.7人	58人	57.4人
生活介護(定員20人)	19人	16.7人	19人	17.9人
短期入所(定員6人)	4.0人	1.9人	4.0人	1.5人
放課後等デイサービス(定員5人)	4.5人	4人	4.5人	3人

よこはまりバーサイド泉相談支援事業所

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1.	ご利用者の意思決定を尊重したサービスの提供 サービス利用や住まいの選択、困り感の聞き取りなどできる限りご本人の意向を確認するよう個別の聞き取りや支援者への確認、会議開催などご利用者の状況に合わせた場面を設定の上、意向を確認し、計画書に盛り込み全支援者皆の指標とした。
2.	職員のスキルアップと事業所の安定的な経営 (ア)相談支援専門員の質の向上 ① 自身が学びたい分野についての福祉関連オンライン講座を毎月 2 講義以上受講、報告書を作成し振返りや他職員間との共有に努めた。 ② 毎月自立支援協議会相談部会に参画し現福祉行政の知識を得る、他事業所との関わりを通して資質向上のための知識や技術を学んだ。 (イ)各種加算の確保、収入の安定 ① 令和 7 年度は 1 名の施設入所中の方の意向を反映し地域移行支援を実施し途切れのない支援を継続しながら地域での生活を目指した。 ② 請求に関しては、加算等をもれなく行うため、毎月各相談員に支援内容の確認を行った。

2. 稼働実績

事業名		稼働数(1 日平均)			
		R6 年度		R7 年度	
		目標値	稼働数	目標値	稼働数
計画相談	契約者数	360 人	308 人	330 人	305 人
	毎月の請求数	130 件	114 件	120 件	113 件

※計画相談契約者数は令和 8 年 3 月 31 日現在の数字です。

よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. ご利用者に選ばれる事業所作り	「ご利用者が中心」である事を共通認識とする為に、年度初めに職員に周知し、活動内容や日々の支援においても反映されるようにミーティング・面談にて職員間で確認を行った。支援員1名が喀痰吸引研修を受講終了し、医療的ケアを実践している。それにより看護師の負担軽減、ケア度の高い方の利用を1日増やす事ができた。満足度調査における『今後の利用について』の設問では「是非継続したい」50%、「継続したい」46.4%「あまり継続したいと思わない」3.6%という結果となった。昨年度に比べ1日当たりの平均稼働数は0.5人増加した。
2. 職員のチーム力向上	主任・係長間の連携を密にはかり、他職員と対話を重ね事業所の考えを浸透させる事でチーム力が増した。また各々に見合った内容の研修をできるだけ多くの職員が受講できるように機会を設け、年末に伝達講習を行った。その結果、知識・技術のボトムアップと共に日々の支援に、その成果を活かす事ができている。
3. 地域に開かれた事業所作り	新たに2名のボランティアの登録があった。ボランティアの定期的な来所は職員の意識向上や活動の幅を広げるなど事業所に良い影響をもたらしている。また、ご利用者・事業所の事を地域の方々に知ってもらう為に、地域で行っている活動にご利用者と積極的に参加し、事業所のお祭りでは近隣のダンスサークル（小学生）に参加を呼びかけ披露して頂いた。
4. 事業所間での連携・協力体制を図る	年明けに適切な職員配置をする事が難しい状況があったが、泉Ⅲ支援員・看護師の派遣協力があった為、大きな事故やサービスの縮小を行うことなく営業を継続する事ができた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員 20 人)	18 人	17.6 人	18.5 人	18.1 人

よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. ご利用者が生活しやすい環境作り	(ア)年間を通して日帰り外出を計画し、公共交通機関を活用した外出でご利用者の方自身が社会資源を感じる事が出来る機会に繋げる事が出来た。 (イ)日々の活動では定期的に来所頂いているボランティアの方やイベントボランティアの方との交流の機会を多く持つ事が出来ていた。 (ウ)活動の中で子供達や職員が普段と違う環境で家族とも交流が持てる場を設定して、家族の方も普段見ない子供達を知る機会を作る事が出来た。 (エ)他事業所との情報共有を図って、ご利用者や家族へ必要な情報を提供し、先を見据えた福祉サービスの活用や日々の支援から安心できる場所に繋がった。
2. 働きやすい環境作りと人材育成	(ア)支援方法や記録等の事務業務方法の見直しを行ない、記録方法のマニュアル等を作成して全職員が分かりやすくスムーズに業務が行えるようになった。 (イ)各委員会が企画した研修を全職員対象に実施をして職員一人ひとりのスキルアップと支援の質の向上に繋げる事が出来た。 (ウ)支援員による医療的ケアの実施を年間通して計画する事で実施職員の支援技術向上と医療職との連携強化に繋がられた。 (エ)職員の運転技術向上に向けて練習を行ない、対象となった職員がご利用者送迎時の運転を担う事で送迎業務の安定とご利用者の安心に繋がられた。
3. 事業所間での情報共有と協力体制の推進	(ア)他事業所等と情報共有を行ない、ご利用者の状況把握や必要に応じての連携を図ってご利用者が安心できる環境作りに繋がられた。 (イ)医療職間で泉Ⅱとのフォロー体制と必要に応じての情報共有は継続が出来ており、泉の医療職員とも連携の持つ機会が増えている。 (ウ)事務担当を泉Ⅱと兼務により、業務の効率化と人件費の削減に繋がられた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員 20 人)	16.7 人	15.5 人	17.5 人	15.0 人
児童(定員 5 人)	4.7 人	4.1 人	4.5 人	3.4 人

居宅サポート・リバーサイド泉

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 介護技術の向上とニーズに対応したヘルパー派遣	(ア) 事業所全職員に対して年間通じて動画研修受講を継続、介護技術についてはグループホームゆいと共同でご利用者ごとに場面別研修を実施した。 (イ) モニタリングを通じてご利用者のニーズを確認、派遣時間帯や支援内容を見直すことで新規派遣に繋がった。
2. 非常勤ヘルパーの待遇改善と採用の強化	(ア) 早朝、夜間の身体介護や長時間のガイドヘルプに従事するヘルパーの手当を増額、ガイドヘルプの食事補助の運用を見直すことで待遇改善を行った。 (イ) 介護福祉士を保有する非常勤ヘルパー1名を新規採用、新たに4名がガイドヘルパー養成研修を受講し、派遣が安定した。 (ウ) 正規職員の長時間労働の是正には至らなかったが、ヘルパー活動時間と事業所での事務作業の時間を勤務表上で明確にすることで業務効率は向上し、委員会活動や会議へ出席率が前年度に比して高まった。
3. 新規契約の獲得と多様なニーズへの対応	(ア) ご利用者のご希望に沿って新たに3名のご利用者のヘルパー派遣契約を獲得。ADLや生活の変化に応じた支援を実施することが出来た。 (イ) 東京都内等の名所観光、大型レジャー施設への長時間のガイドヘルプを実施し、ご利用者から次回以降のご希望もいただいた。当事業所の魅力を発信するために今回の取り組みを法人のホームページで紹介した。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
(障害)居宅介護	45 時間	46.3 時間	46 時間	47.7 時間
(障害)移動支援・同行援護	22 時間	22.8 時間	23 時間	21.6 時間
(介護保険)訪問介護	5.5 時間	5.3 時間	4.6 時間	5.8 時間

グループホームゆい

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 安心して住み続けられるグループホームづくりと職員の育成	(ア) 事業所全職員に対して年間通じて動画研修受講を継続、介護技術については居宅サポート・リバーサイド泉と共同でご利用者ごとに場面別研修を実施した。 (イ) なごみクリニック定期受診や健康診断、業務委託先の訪問看護ステーションの健康観察を実施することによりご利用者の体調管理体制を強化した。結果入院を要するご利用者は減少し、稼働数の増加に繋がった。
2. 快適な居住環境の整備	(ア) 脱衣所の天井走行リフトの入れ替えを実施。安全な介護の提供と職員の腰痛予防対策を実現した。 (イ) 補助金は複数回申請するも全て見送りとなったが、長引く酷暑に備えて共有部分のエアコンの入れ替えを実施した。 (ウ) 全ホームの共有部において LED 照明へ交換。明るく快適な居住環境の整備を行った。
3. グループホームゆいⅣの契約更新	(ア) ゆいⅢまでの契約更新同様の条件で無事に工事完了することができた。居室のドア交換、天井部の物干し（ホスクリーン）の設置し居住環境を整備した。 (イ) 更新工事に際してトイレの手すりの見直しを実施、ご利用者の ADL や介助方法に配慮した福祉器具を設置することによりご利用者単独で安定した立位、座位が可能になった。
4. グループホームゆいⅥの定員増と新規加算取得	(ア) 定員増を実施し、早期にご入居いただくことができた。稼働数および収入の増加を実現した。 (イ) 医療連携体制加算Ⅰの加算取得を目指したが、事業所の体制が整わず次年度以降へ見送ることとした。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助ゆい(定員 33 人)	30.5 人	30.3 人	30.8 人	31.6 人

グループホームサンライズ

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 快適な居住環境の整備	(ア)老朽化した家電の入れ替え、フリーWi-Fiの設置工事实施しご利用者の生活環境を整えた。 (イ)ホーム内の破損箇所を修繕、業者による定期的なメンテナンスを実施。不具合を未然に防止するように努めた。
2. 健康状態の把握と支援体制の強化	(ア)定期受診先での健康診断、業務委託先の訪問看護ステーションの健康観察を実施することでご利用者の体調管理体制を強化した。 (イ)ミーティングの開催は不定期であったが、支援内容の確認と振り返りを実施し支援方法を統一した。重度障害者支援加算に係る支援についてはマニュアルを更新し対応方法を事業所全体に周知した。
3. グループホームサンライズⅢ開設に向けた準備	(ア)関係機関を通じてご利用者のニーズ、新設ホームに期待することの把握に努めた。グループホームゆいⅤの隣地を候補地として設置許可申請することが出来た。 (イ)開設に向けて若手職員を中心としたチームを発足することは出来なかったが、開設時に必要な手続きや準備について意見交換できる環境を検討していく。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助サンライズ(定員 16 人)	15.5 人	14.9 人	15.5 人	14.8 人

横浜市中央浩生館

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 実施機関や関係機関との連携強化による入所者の安定的な確保と地域移行に向けた支援の充実	各関係機関への入所及び通所事業利用の働きかけを継続的に行い、令和7年度中に15名の新規入所者を受け入れた。実施機関から直接の依頼の割合が高くなっている。はまかぜからの紹介数も回復してきた。また、20代から30代の入所者が9名(3月1日現在)と若年者の増加もあり、生活習慣の形成や人間関係の持ち方など新たな課題も出てきている。地域生活移行に向け、積極的に就労や通所に繋げ、借り上げアパートを活用した自立生活体験事業等を通じて入所目的を達成することを目指して支援を行った。
2. 快適で安全な施設環境の維持と衣食住の充実を通じたご利用者の満足度向上	配管やボイラーの水漏れなど、老朽化した設備については、横浜市と協議しつつ入居者の生活への影響を最小限にとどめ、可能な限り早期に修繕・交換対応を行い、給食については、食材費の高騰の中でも食材選定等工夫し、献立の質・量を維持し、ご利用者の満足度の維持を大切にして提供することができた。
3. 地域清掃活動や地域住民と共に行う行事の実施	地域行事としての食事会を12月に開催し近隣住民との交流を深めた。ご利用者の活動の一環として地域清掃を月1回程度実施した。また、消防団活動への職員参加等地域との連携を保つ取り組みを継続している。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6年度		R7年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60人)横浜市中央浩生館	50人	48.4人	50人	48.0人
通所(定員28人)横浜市中央浩生館	28人	25.4人	26人	23.8人
訪問(定員2人)横浜市中央浩生館	2人	1.3人	2人	2.3人

インカル

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. ご利用者定員の確保と出席率の向上	(ア) ご利用者のニーズ把握のため、年 2 回の個別支援計画を実施。今年度、3 名のご利用者へ対し、特例子会社への就労及び就労移行支援、就労継続支援 A 型事業所へ繋げることができた。 (イ) 前年度と比較し、稼働数(1 日平均)1 名減少となるが、平均工賃については、2,500 円程アップした。 (ウ) 一部企業との取引縮小に伴い、新規企業開拓を行った。月平均工賃 35,000 円の収益を得ることができた。 (エ) ご利用者の参加率 80%を課題に掲げていたが、今年度 76%とわずかに達成することができなかった。引き続き、ご利用者の確保に取り組んでいく。
2. 人材育成や良い職場環境作り	(ア) 専門性の向上を目的として、ご利用者の意思決定支援研修や虐待防止研修、アンガーマネジメント研修など外部研修に参加した。 (イ) 良い職場環境づくりに努め、事務室や作業室の配置転換を行った。
3. 行政、関係施設・機関との連携と地域貢献	(ア) 地域交流を目的とした寿地区の事業所連絡会に参加。また、年 2 回の合同説明会を開催し、事業所を知る機会ができた。 (イ) 地域交流の一環として、運動プログラムや講座へ参加した。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
インカル就労移行支援(定員 6 人)	3 人	0.1 人	3 人	0 人
インカル就労継続支援(定員 34 人)	31 人	27.2 人	30 人	26.1 人

グループホーム すてら縁

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 個人の尊厳を大切にし、ご利用者一人ひとりの意思に寄り添った支援の提供	それぞれのご利用者の生活スタイルに合わせた支援の提供を行い、相談や通院同行等を実施し、ご利用者に安定した生活の場を提供することができた。騒音問題など、根気強い対応を必要とするご利用者もあったが、職員が協力して対応した。
2. 単身地域生活への移行を目指す支援	生活の安定を課題とするご利用者が多く、本年度はアパートでの単身生活移行に至るご利用者が1名あった。
3. 人材育成	短期間での世話人交代があったが、法人内 GH 担当者会議等で運営及び支援体制の共有を行い、利用者支援の質を保った。また、外部研修への参加の他、毎月カンファレンスを実施し、職員間の情報共有と支援の質の向上を図った。
4. 近隣地域との連携体制の強化	自治会の会合や活動に可能な限り参加し、地域住民との交流を継続した。日々の生活の中で近隣住民への挨拶を積極的に行うことをご利用者へも継続的に働きかけており、スタッフへも徹底した

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
すてら縁(定員 10 人)	10.0 人	9.8 人	10.0 人	8.8 人

うるおい南

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 個人の尊厳を大切にし、ご利用者一人ひとりの意思に寄り添った支援の提供	(ア)ご利用本人だけでなく家族とも、日常的に面談や連絡をこまめに行い、ご利用者の生活全体のサポートも行った。その結果、参加率は平均 82%(平均利用実績 45.7 人／登録者数 53 人)の水準となった。 (イ)幅広いご利用者の受け入れに対応するため、関係機関や特別支援学校との関係を強化し、高等部卒業予定者にも十分な説明を行い、利用希望に繋げた
2. 無理のない環境下での工賃の安定維持	(ア)ご利用者の安心感を維持するため、民営化当初から以前の企業との関係を大切にしながらも公共機関等との関係づくりを行い請負先数は変わらなかったが、信頼を得て年々受託量が増えた結果、ご利用者に提供する作業内容が多くなり、個々の特性に応じた作業提供を行うことができた。 (イ) 企業との単価交渉も積極的に行うことにより、単価の改善も図った結果、受託量の増加と相まってご利用者の作業工賃も平均 44,000 円超を達成し、ご利用者のモチベーションの向上に寄与した。
3. ご利用者の生活の質の向上のための、余暇活動実施	昨年度同様、講師を招き「ボッチャ」「金銭に関する講座」等楽しめる余暇活動を実施して、気分転換を図ることができた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
うるおい南(定員 45 人)	48.0 人	45.0 人	50.0 人	45.7 人

横浜市大岡地域ケアプラザ

I. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

1. 社会福祉事業

(ア)通所介護事業

① 利用者満足度の向上と新規利用者の獲得

年3回の利用者アンケートを実施し、サービス改善に継続的に反映した結果、サービス全般で「満足」「やや満足」が概ね80%以上を占めた。課題として明らかになった機能訓練・レクリエーションの充実に向け、麻雀の定期実施や保育園児・小学生との地域交流、外部ボランティアによる季節行事を実施した結果、例年低調な冬場から利用者数が増加に転じ、第4四半期は好調を維持することができた。情報発信の強化として、ホームページ・ブログの月次更新とチラシの年4回更新に取り組み、新規利用者43名（前年度比+43%）・見学者数36件（前年度比+71%）を達成し、見学者の約半数を利用契約につなげることができた。一方、夏場の空調不具合による延べ40名の利用控えと日曜日の集客難が稼働率に影響し、年間利用者数は6,933人（前年度比393名減）にとどまった。

(イ)地域活動交流事業

① 地域の方々がいきいきと参加・活躍できる場所の創出

地域活動団体や南区ボランティアセンター、通所介護事業との連携により、新規3団体・活動経験5団体の活動につながり、個人ボランティアも4名増加した。地区センター・スポーツセンターとの3館合同でフードドライブや特別支援学校の校外学習受け入れ、クリスマス企画、足の健康フェスタ等に取り組み、地域住民の多様な参加を促進した。

2. 公益事業

(ア)居宅介護支援事業

① 新規利用者の獲得

包括支援センター、医療機関との連携により、ご利用者の新規受入件数が要介護47件、要支援14件増加し、実績は1,597件と年間目標を達成した。また、特定事業所加算の継続取得により安定した事業運営につなげることができた。

(イ)地域包括支援センター

① 認知症予防、介護予防、権利擁護に関する普及啓発の推進

認知症施策については、チームオレンジ事業の本格実施に伴い、弘明寺商店街・南図書館・地域医療機関と連携した「大岡ほっとスペース」を開催

し、地域全体での認知症理解促進を図った。権利擁護については、出張相談や地域サロンの場を活用し、認知症、成年後見制度、消費者被害、終活等に関する講座を幅広く実施した。老後のお金やお墓、断捨離などをテーマとした終活講座の年間シリーズ化と2次元コードを活用した申し込み方法の導入により、新たな参加者層の獲得にもつながった。栄養・口腔ケア・運動等に関する介護予防事業はケアプラザ会場で重点的に実施し、継続して多くの参加者を得た。ケアマネジャー支援については、関係機関と連携した研修を計画通り実施し、専門性向上と継続的なケアマネジメントの推進に成果を上げた。「あんしん電話事業」終了後の「高齢者見守り・安否確認機器補助事業」に関する講座には民生委員も参加し、制度理解につながった。

② 地域住民の日常生活課題の早期発見、早期解決

民児協や地域ケア会議、サロン等での民生委員や地域住民との意見・情報交換を継続的に実施し、支援につなげた。井土ヶ谷地区については職員加配やランチ設置も含めて検討したが、制度面・財政面の課題から出張相談を軸とした支援体制の継続が現実的と判断し、UR等の関係機関との連携深化とICT活用による相談環境の充実を図った。

(ウ)生活支援体制整備事業

① 地域活動の創出と継続

多世代・多様な立場の住民が参画する協議の場を形成し、継続的な意見交換を通じて関係者間の相互理解と役割の明確化を図った。その結果、住民主体による地域食堂の立ち上げにつながり、地域資源の拡充と活動継続に向けた基盤づくりを推進することができた。

② 高齢者の社会参加、生きがいづくりの促進

地域活動への継続的な訪問を通じて課題・ニーズを把握し、助言や関係機関との調整などの後方支援を行った。新たに学校との連携も深まり、多世代交流が進んでいる。また、薬局と連携したサービスBを安定運営させ、地域の介護予防拠点として機能させるとともに、地域活動支援センターと連携してご利用者と住民が役割を持って参加できる仕組みを構築し、主体的な社会参加と交流機会を創出した。

(エ)介護予防支援

① 適切な介護予防支援の実施

包括職員が他の業務と両立しながら適切な計画作成に取り組み、包括支援センターとしての機能維持・向上につなげることができた。

② 一部直営による安定した収入の確保

年間目標108件を上回る138件の介護予防サービス・支援計画書を作成し、

安定収入を確保した。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員 30 人)	23.5 人	20.5 人	23.0 人	19.4 人
居宅(年間のべ) (内訳)	1,440 件 介護 1,080 件 支援 360 件	1,555 件 介護 1,075 件 支援 480 件	1,500 件 介護 1,080 件 支援 420 件	1,597 件 介護 1,160 件 支援 437 件
介護予防支援・介護予防マネジメント (直営年間のべ)	60 件	49 件	108 件	138 件

横浜市箕沢地域ケアプラザ

I. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
I. 社会福祉事業	
(ア)通所介護事業	
①	感染症や災害発生時を想定した、安全・安心な事業所運営 業務継続計画に沿って、震度 5 以上の地震発生を想定した安否確認訓練を実施した。チャットワークやメールを利用し安否確認情報を収集、非常時の運営がスムーズに計画できるよう実施した。
②	ご利用者が安心・安全に通所できるサービスの提供 契約時には契約書に基づき高齢者に分かりやすい説明を念頭に置き対応した。利用開始後も、担当ケアマネジャー、ご家族と小さな事案も報告・相談しサービスの質の向上に努めた。 季節代わりに体調を崩されたご利用者が多く、利用者数が大きく減少したが、第 4 四半期は回復し、年間トータル前年度比 0.2%の減にとどまった。
③	働きやすい環境の整備 新たに係長を配置し、従事者の 3 分の 2 を占める非常勤職員が相談しやすい環境整備と、催し物の充実など利用者確保につながりうる提案に対し、積極的に取り入れた。
(イ)地域活動交流事業	
①	誰もが安心して暮せる町づくりへの貢献 自治会町内会や活動者の会合などに積極的に参加し、日常的に関りを持つことによって相談しやすい関係づくりに努めた。また、第 5 期地域福祉保健計画策定にあたりアンケートを実施。地域の好きなところや良くしたいところなどを聞いた。小学生から高齢者まで幅広い世代から 111 件の収集となり、計画に反映させた。
2. 公益事業	
(ア)居宅介護支援事業	
①	事業所内連携を活かした継続的な新規ご利用者の獲得 地域包括支援センターとの連携にて、昨年度を上回る新規の紹介から目標値には及ばなかったが利用者確保へ繋がった。また、困難ケースも積極的に契約し、包括支援センターと連携することで個々の介護支援専門員のスキルアップに繋がった。
(イ)地域包括支援センター	
①	認知症予防、介護予防、権利擁護に関する普及啓発の推進

- 権利擁護講座はエリア内に大きな公園がある事に視点を置きペットを飼っている方向けの終活講座を行った。ペットのためにも早いうちから認知症になった際の対策を考える必要性を感じたと好評頂いた。
- 介護予防講座は地域の会場で行う事で新規参加者の確保と地域住民への更なる介護予防の普及啓発につながった。
- 体力測定会を健康づくりサポーターと開催。研修会や交流会の継続により「体操をもっと行いたい」との意欲向上につながり次年度連続講座の開催を予定している。

② 地域住民の日常生活課題の早期発見、解決に向けた地域との連携

民生委員との連携、地域住民からの情報提供から早期介入し支援の早期開始へとつなげた。見守りの視点から民生委員とケアマネジャーとの連携、エリア内の集いの場や商店など重要な地域資源を共有する地域ケア会議を開催した。

(ウ)生活支援体制整備事業

① 地域資源や人材とつながりを結び付けた地域課題の解決

介護支援専門員から要支援者の困りごと解決として相談が入り、包括支援センターと連携し、地域の担い手に依頼をした。同行訪問し、解決に結びつけた。

② 地域住民のニーズを反映した活動から担い手の確保

男性対象のお料理教室(自主事業)について興味を持った来館者と交流を企画。男性参加者が女性高齢者に簡単な料理を提供したり、包丁研ぎを行った。生き生きと活動された男性参加者が、今後地域の担い手となるべく取り組みを進めていく。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員 40 人)	32.0 人	30.6 人	32.0 人	30.4 人
居宅(年間のべ) (内訳)	700 件 介護 600 件 支援 100 件	658 件 介護 569 件 支援 89 件	700 件 介護 600 件 支援 100 件	733 件 介護 636 件 支援 97 件
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント (直営年間延べ)	108 件	54 件	108 件	79 件

横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター

Ⅰ. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

1. より身近となる相談支援体制づくり

(ア) 支援センターの相談支援機能について、より地域に身近な存在となるよう今年度も各ケアプラザとの連携強化を推進した。関係がより深まったケアプラザからは、「アドバイスや意見が欲しい」、「一緒に対応を検討して欲しい」、「継続的な協働支援や見守りを行ってほしい」などの相談が少しずつ増えた。

(イ) 個別支援以外にも区サポートネットへの参加、同館内の星川ケアプラザとは毎月の連絡会実施に加えチームオレンジへの参加などを通じて、より関係深化する機会が増えた。また、他領域の関係機関等との連携強化も推進するため、生活困窮アウトリーチ支援事業等、幅広く可能な限りの連携・協働を継続した。

(ウ) 複雑化している地域相談支援体制について、生活支援センターだからこそ担える対象や目的等の主軸を再整理する動きの必要性を市域で共有できた。それを受け次年度以降、市内全 18 区の支援センターと連動し協議を進める。

2. 誰もが住みよい地域体制整備に寄与

誰もが住みよい地域づくりを推進するため、「にも包括」「地域生活支援拠点」などの制度的な仕組みや機能をより充実させる取り組みを続けた。これまで中核を担い作り上げてきた、「区自立支援協議会と、そうした制度の整備計画等がリンクする運営サイクル」を継続してきたことで、各部会の取り組みが地域体制整備と連動している意識をより強くもって運営していく形がさらに強まった。

3. ピアサポートとの協働推進

(ア) 日々のピアスタッフとの協働実践を土台として、「横浜市ピアスタッフ推進事業」、「神奈川県障害者ピアサポーター養成研修事業」の企画検討から参画し、研修内ではピアスタッフと共に講師やファシリテーター等を担う機会も増えた。

(イ) 広域では、「障害者ピアサポート研修事業に係る指導者養成研修（国研修）」の講師・ファシリテーターを担い、その全般的な普及・発展に尽力した。

4. 「メンタルヘルス」を軸とした普及啓発

(ア) 社会福祉協議会と共催で開催したボランティア講座、ケアプラザ主催の「あんしん訪問員向け研修」、また家族会の学習会などでピアスタッフと共に講座を行い、メンタルヘルスに関して幅広く普及啓発できた。その内ボランティア講座受講された傾聴サークルの皆様が、その後生活支援センターで「傾聴サロン」を行ってくださるなど、継続した関係性構築につながった。

(イ) 今年度も年 1 回の館内複合施設共催のお祭りでは、各関係機関とも協働することで、子供から高齢者まで、幅広い方々が 300 名以上来館いただき、メンタル

ヘルスに関する普及啓発の貴重な機会ともなった。

(ウ)国がその普及を進めている「こころのサポーター養成研修」についても、市こころの健康相談センター主催や他区での実施について協力できた。

5. 専門相談機関職員としての資質向上

資質向上を図るため、係会議等で内部研修を適宜行うことに加えて、参考となる外部の研修にも積極的に参加し伝達・共有した。ケース受け入れや支援検討などのカンファレンスを多く実践すると共に、個別の振り返りの機会等を恒常化させるなど、各職員が対人援助専門職としてのスキルアップしていけるよう、相互にスーパーバイズし合える環境整備を推進した。

2. 稼働実績（令和 8 年 3 月 31 日現在）

事業名		契約数			
		R6 年度		R7 年度	
		目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着		15 人	26 人	15 人	28 人
計画相談	契約件数	90 人	85 人	90 人	88 人
	毎月の請求数	40 件	44 件	40 件	35 件
自立生活援助事業		5 人	2 人	5 人	2 人

事業名	R7 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	29 人	18 人	21 人	8 人

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

1. 生活支援センター標準化後の課題に対する分析及び市への提案

- (ア)集計データより午前中におけるアウトリーチニーズの増加を確認し、条例上の留意事項に着目し開館時間の変更（10 時－19 時→9 時－18 時）週 2 日導入した。
- (イ)調理パートの高齢化、人材確保の困難さを主張し続け全区課題として取り上げ、食事提供サービス回数の新たなルール改正（最低でも週 2 日）に貢献した。また、就労系事業所への外部委託案を提案し、鶴見区にて先行モデルとして令和 8 年度から実施する予算を確保した。
- (ウ)過去の条例改正時のプロジェクトメンバーとして、積み残し課題への再検討を主張し、令和 8 年度より新たな条例改正に向けて 2 つのプロジェクトチームが発足される形作りに貢献した。

2. 地域への普及啓発活動の強化

- (ア)鶴見区地域作り活動において、駅前ビルでの普及啓発活動の提案や新たに鶴見市場 CP との連携による障害理解講座等、活動範囲を拡大することができた。
- (イ)毎年恒例の自治会との合同夏祭りでは、多くの方に来場して頂いただけではなく、精神保健福祉に少しでも興味を頂いてもらうよう SNS 等も活用し、地域の方々に楽しみながら理解が深まる活動を実施した。
- (ウ)地域で開催されている編み物教室やボランティア活動の場の提供としてセンターを開放し、地域住民とセンター登録者が生産活動を通して交流できる機会を提供した。その他、四季折々のイベントも地域の方々と共に実施できたことで、精神障害者への理解を深めて頂く機会に繋がった。

3. 権利擁護、インクルーシブ教育を意識した活動の継続

- (ア)小学校特別支援学級の生徒、保護者、教師の方々と共に四季折々のイベントを実施した。センター登録者と子供達が共に楽しい時間を過ごし、互いの理解を深め合う場となった。合計延べ 400 名の子供たちが、障害当事者との交流機会を経験することができた。
- (イ)鶴見区全体でイベント時にボッチャ大会を開催し、子供達含め様々な年代の方々と障害当事者の方々がスポーツを通じて、交流する機会を提供致した。

4. 横浜市におけるピアスタッフの社会的地位の確保

- (ア)横浜市地域移行部会において、ピアスタッフの強みや相談事業所に配置する効果を改めて伝え待遇改善の検討を横浜市に訴えた。継続検討課題となったが、風化されないよう今後も伝え続けていく。

(イ) 鶴見区内勉強会において、当センター所属のピアスタッフの研修会を実施した。
発表内容を認められ、横浜で開催される全国精神科デイケア学会での登壇依頼があり承諾致した。令和 8 年 10 月にシンポジウム形式で発表予定。

(ウ) ピアスタッフの重要性を主張する中で、神奈川県のパスタスタッフ養成研修の運営にも携わり、新しいピアスタッフの育成にも貢献した。

5. 精神保健の専門相談機関としての専門性の質の向上

(ア) 常勤+ピアスタッフの計 10 名がスタッフミーティングにおいて伝達講習+独自研修を実施した。結果、各人のプレゼン能力の向上、発表資料の作成力向上等にも繋がった。

(イ) 実習生の受入を今年度も積極的に実施。計 15 名の受入を実施し、5 名の職員で分担した。学生を指導することで、専門職自身の学術への振り返りにもなった。

(ウ) 自己評価シートを作成し、個人面談を年 2 回実施。法人キャリアパスに基づいて振り返り、職員一人ひとりの士気向上に繋がった。

2. 稼働実績（令和 8 年 3 月 31 日現在）

事業名		契約数			
		R6 年度		R7 年度	
		目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着		15 人	17 人	15 人	16 人
計画相談	契約件数	100 人	83 人	100 人	88 人
	毎月の請求件数	50 件	41 件	50 件	38 件
自立生活援助事業		5 人	0 人	5 人	2 人

事業名	R7 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	28 人	14 人	27 人	1 人

グループホームアンダー

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 事業所間（アンダー常盤台・中里台、Crane 神之木）の連携強化、システム統一	
（ア）世話人ミーティングを定例化し、各ホームの状況を世話人間で共有した。特に、上半期世話人不在であった中里台に関しては、世話人全員でサポートしながら運営維持した。	
（イ）記録、請求システムの統一化を図ったが、さらにパート求人方法の統一化やイベント開催等の統一化を図った。	
2. 研修機能の強化	
内外の研修に積極的に参加した。特にオンライン研修のシステムを導入し、常勤職員だけではなく非常勤職員も含めて、効率よく研修に参加できる機会を設けた。	
3. 入居者の満足度の向上	
（ア）四季折々の行事開催について、各ホームで開催頻度が異なったが、各ホームが定期的に行事開催できるようになり入居者からも好評を頂いた。	
（イ）合同交流会を開催し、各ホームご利用者が一同に集まり地域の方々と交流する機会を設けた。法人内の事業所にもお菓子作成を協力依頼し、和やかな雰囲気の中で自治会の方々とご利用者が共に笑顔になれる時間を提供した。	
4. 地域との連携強化	
地域連携推進会議を開催し、自治会の方々との意見交換の場を設けた。次年度以降も定期的に行き、より地域の中で根付いたグループホームとなれるよう意識を高めていきたい。	

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6 年度		R7 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アンダー常盤台(定員 6 人)	6.0 人	5.4 人	6.0 人	6.0 人
アンダー中里台(定員 7 人)	7.0 人	6.2 人	7.0 人	5.0 人
CRANE 神之木(定員 10 人)	10.0 人	9.5 人	10.0 人	9.8 人
CRANE 江ヶ崎(定員 10 人)		3.4 人	10.0 人	9.5 人

CaféTurtle

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 事業運営の安定化	(ア)令和6年度の平均工賃額に基づき、報酬単価がUPしたことにより毎月の収入が約20万円程度増収となったが、損益分岐点には到達せず安定運営とならなかった。 (イ)事業安定化のために、外部委託事業を増やしさらなる平均工賃額のUPを目指し令和8年度より2事業所と委託契約を結んだ。これにより、令和9年度の報酬単価に関しては、2段階UPし報酬の増収を見込んでいる。令和9年度に損益分岐点に到達する予定で取り組む。
2. ご利用者の満足度向上、作業内容の拡充	(ア)外部委託の受注を受け、喫茶作業のみならず清掃・調理補助等、新たに作業内容を拡大することにより、ご利用者の就労意欲のモチベーション維持に努めた。 (イ)内外のお祭りに出店する等、ご利用者自らが地域の方と交流し成果物を販売する経験をすることでやりがいを感じられる機会を提供した。
3. 地域イベントへの継続参加及び物販機会の新規開拓	(ア)周辺企業への置き菓子を継続した。また、新たに1企業と業務委託契約を結んだ。 (イ)神奈川区のマスコットキャラである「亀太郎」を描いたクッキーを区からの依頼により作成。社会福祉協議会からも受注が来るようになり、正式に許可を得てマスコットキャラを用いたクッキー販売を開始した。 (ウ)開所2年目から継続している商店街等との合同イベントのみならず、区内自立支援協議会でのネットワークを通して区内で新たな物販機会を得ることができた。引き続き、地域密着型を意識して地域との連携に努める。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R6年度		R7年度	
	目標値	実績	目標値	実績
就労継続支援B型(定員20人)	18人	8.3人	15人	8.4人

横浜市多機能型拠点こまち

Ⅰ. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

Ⅰ. 社会福祉事業

(ア) 安心・安全に地域生活を過ごせるように、多機能型拠点の機能を活かした、多職種連携により必要（感謝）とされるサービスを提供する。

- ① 未就学児の利用希望が多く、泊なしへの利用に繋げることができた。
- ② 学校や医療と情報共有を図り、医療保育教育連携により総合的支援に繋がった。
- ③ 発達に合わせた活動プログラムの充実に努め、未就学児の外出も実施できた。保護者会は芳香剤作り、活動内容のスライドショー、懇談会、試食会を行った。
- ④ ヨコハマ・バリアフリービーチといちご狩り・インクルーシブ公園を外出した。呼吸器を使用しているご利用者も職員と一緒に掛け、幅広い活動支援を提供した。
- ⑤ 学校にセラピストが訪問し、授業が円滑に行えるよう支援し、課題解決に繋がった。
- ⑥ 歩行器を導入し、より本人の動きを引き出す関わりが行えた。
- ⑦ 音声入力ができるタブレット端末を導入し、速やかに情報共有ができ、利用者サービスの向上に繋がった。

(イ) 医療的ケア児者の健康管理や活動などに対応できる人材育成を行う。

- ① 夜勤ができる看護師 1 名支援員 2 名を育成した。
- ② サービス担当責任者を 1 名育成し、同性担当制とすることでご利用者の特性やニーズに配慮したより細やかな支援体制を整えた。
- ③ サポートズカレッジを活用し、業務の基礎と個人のスキルアップにつなげた。
- ④ ドライバーが二俣川教習所の運転診断コースを受講し、安全意識を高めた。

Ⅱ. 公益事業

(ア) 多機能型拠点の機能を活かした診療と関係機関との連携を維持する。

- ① 栄養指導を行い、離乳食の完了と胃瘻食への移行、貧血の改善に繋がった。
- ② 特別支援学校の臨床指導や保育園の健診等、地域施設への協力医療機関として幅広く貢献することができた。施設への往診接種を継続し感染予防に努めた。
- ③ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院と連携登録医療機関として連携した。
- ④ 特別支援学校の通学支援を継続的にを行い、利用ニーズに対応できた。
- ⑤ 訪問ニーズに柔軟に対応し、利用者サービス向上に努めた。
- ⑥ 地域連携研修・訪問看護師入門研修・養成研修・小児プライマリケア認定看護師の実習を受け入れた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)				
	R6 年度		R7 年度		備考
	目標値	稼働数	目標値	稼働数	
診療所	45 人	45.5 人	45 人	44.2 人	施設内診療含む
訪問看護(訪問リハ含む)	12 人	10.6 人	12 人	13.1 人	通学支援含む
一般相談		1,480 件		1,498 件	延べ件数 件
計画相談・障害児相談	60 件	120 件	95 件	128 件	月の平均件数(加算含む)
福祉型短期入所(定員 5 人)	4 人	4.1 人	4 人	4.1 人	開所日の平均
医療型特定短期・日中一時	13 人	11.6 人	13 人	12.2 人	
居宅介護・移動・重度訪問	20 人	14 人	20 人	8.2 人	
放課後等デイサービス	5 人	4.6 人	6 人	4.4 人	
保育所等訪問支援			6 人	7 人	※契約人数 月 2 回訪問が上限
生活介護(定員 20 人)	18 人	16.2 人	18 人	16.2 人	
福祉有償移動サービス	2 人	1.8 人	2 人	2 人	
学校通学支援(看護師添乗)	5 人	8 人	7 人	8 人	契約人数

左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 放課後等デイサービス	(ア) 学校併設の放課後デイサービスとして、地域に根ざした活動を展開する。 ① 学校等と情報共有し、9月に地震の避難訓練を実施。 ② コミュニティハウスや他事業所のイベントに参加し地域と交流することができた。また横浜マラソンやラポールでの作品展・写真展に参加。 ③ 近隣のスーパー等に出かけ地域の多くの方と交流することができた。 ④ 管理栄養士が参加し、情報提供を行った。12月のイベントは家族も参加し、交流を深められた。
2. 学校看護師派遣及び通学支援事業	(ア) 医療的ケア度の高い児童が安心して通学し、楽しく授業に参加できるよう健康面の充実と安全を確保する。 ① 体調変化等に対応できるよう常に情報を共有し、マニュアルを修正した。教員と一緒に体調を確認することで授業を安全に楽しく受けることができた。修学旅行に看護師2名が付き添う体制を整え、参加できた。 ② マニュアルを作成し、安全に滞りなく行えた。保護者のニーズに応えながら柔軟に対応できた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)				
	R6 年度		R7 年度		備考
	目標値	稼働数	目標値	稼働数	
左近山放課後デイサービス	5 人	4.6 人	6 人	4.9 人	
学校看護師派遣(1日付き添い)	1 人	1 人	1 人	1 人	人工呼吸器利用者
学校通学支援（看護師添乗）	2 人	2 人	2 人	2 人	人工呼吸器利用者